

令和6年度第1回エコチル調査企画評価委員会

日時：令和6年9月4日（水）10：00～12：00

会場：AP 東京丸の内会議室 E+F 及びオンライン

議 事 次 第

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の実施状況について
 - ① 環境省からの報告
 - ② エコチル調査コアセンターからの報告
 - (2) 令和6年度年次評価について
 - (3) その他
- 3 閉 会

配付資料

- | | |
|---------|---|
| 資料1 | 令和6年度エコチル調査企画評価委員会委員名簿 |
| 資料2－1 | 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の概要 |
| 資料2－2 | 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
環境省の取組について |
| 資料3 | エコチル調査の進捗について |
| 資料4－1 | 令和6（2024）年度年次評価の進め方について（概要） |
| 資料4－2 | 令和6（2024）年度 子どもの健康と環境に関する全国調査
（エコチル調査）年次評価の進め方について |
| 資料4－3 | 令和6（2024）年度 子どもの健康と環境に関する全国調査
（エコチル調査）年次評価に関する実施要領 |
| 資料4－4 | 令和6（2024）年度 ユニットセンターの評価視点について |
| 参考資料1 | エコチル調査企画評価委員会開催要綱 |
| 参考資料2－1 | 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
基本計画（令和5年3月30日改定） |

- 参考資料 2－2 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
研究計画書（第4.1版）
- 参考資料 2－3 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
詳細調査研究計画書（5.00版）
- 参考資料 3 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
環境省の取組について（過去の取組）
- 参考資料 4 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
令和5年度進捗状況報告書
- 参考資料 5 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
第四次中間評価書

令和 6 年度 エコチル調査企画評価委員会委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏 名	所属・職名
石井 礼花	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部 発達機能研究室 室長
板倉 敦夫	公益社団法人 日本産科婦人科学会 周産期委員長
伊藤 隆一	公益社団法人 日本小児科医会 会長
岩澤 美帆※	国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部 部長
岩田 和之※	学校法人松山大学 経済学部 経済学科 教授
鈴木 俊治	公益社団法人 日本産婦人科医会 常務理事
千先 園子	公益社団法人 日本小児保健協会
田嶋 敦※	国立大学法人 金沢大学 医薬保健研究域医学系 教授
玉腰 暁子※	国立大学法人 北海道大学大学院 医学研究院 社会医学分野 公衆衛生学教室 教授
中村 晶子	仙石山法律事務所 弁護士
濱口 欣也	公益社団法人 日本医師会 常任理事
村田 勝敬	国立大学法人 秋田大学 名誉教授
森 潤	公益社団法人 日本小児科学会
森 剛志	一般社団法人 日本化学工業協会 化学品管理部 部長

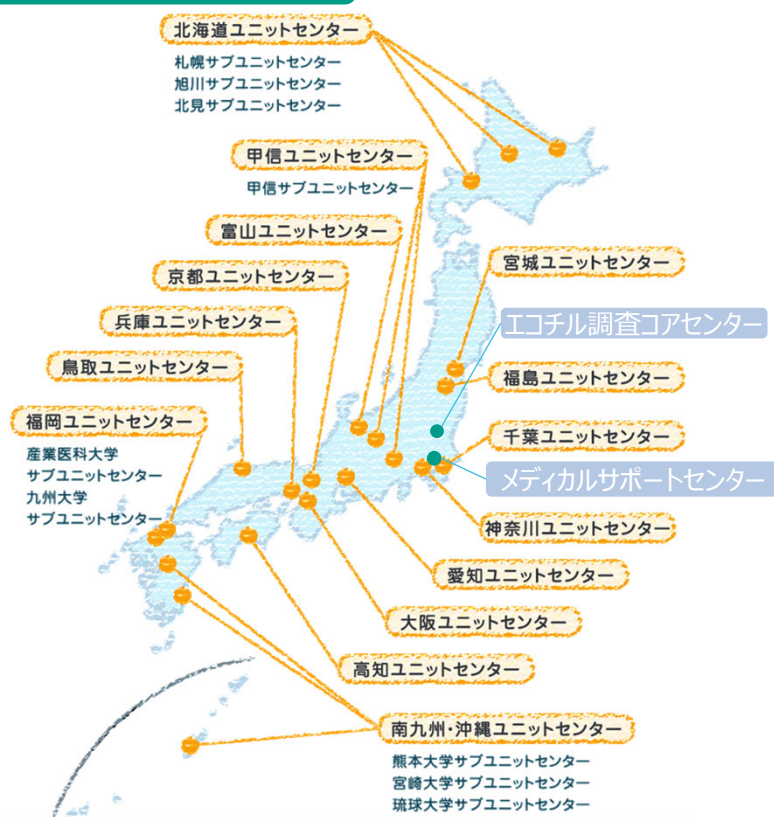
※エコチル調査評価ワーキンググループ委員

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の概要

調査の目的・概要

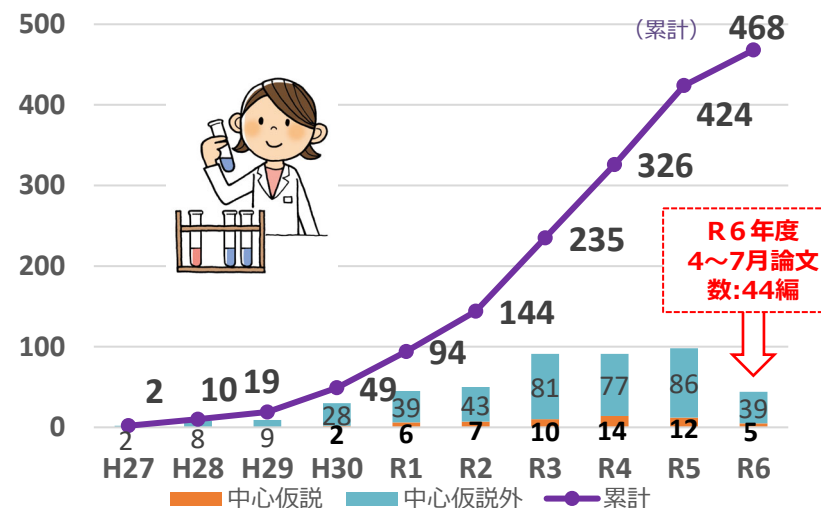
- エコチル調査の目的は、化学物質のばく露等が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているかを明らかにし、リスク管理当局や事業者への情報提供を通じて、適切なリスク管理体制の構築につなげることである。
- 化学物質等の環境要因が健康に与える影響を解明するため、**約10万組の親子を対象としたエコチル調査を2010年度から実施。参加者の多くが協力を継続。**
- 参加者の血液等の**生体試料(約560万検体)**を採取・保存・分析するとともに、質問票等による追跡調査を実施。
- 開始時に策定した学童期(～12歳)までの基本計画を、**「エコチル調査企画評価委員会」の議論※を踏まえて13歳以降の調査に向けて改定(令和5年3月30日公表)。** ※「健康と環境に関する疫学調査検討会」報告書(令和4年3月29日)を受けて議論

エコチル調査実施体制



研究成果

- 令和6年7月末時点までの全国データを用いた論文数は**468編(中心仮説は56編)**。
- 妊婦の化学物質等のばく露と、子どもの体格やアレルギー疾患等の健康影響との関連が明らかとなっている。



* 中心仮説: 胎児期～小児期の化学物質ばく露等の環境要因が、妊娠・生殖、先天性形態異常、精神神経発達、免疫・アレルギー、代謝・内分泌系等に影響を与えているのではないか。

成果発表一覧

<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/publications.html>

妊婦や子どもの健康に関するガイドライン等の策定

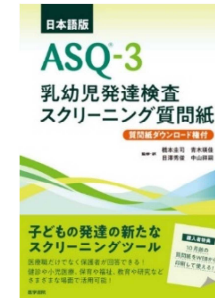
- 食品安全委員会 評価書 3件
- ガイドライン等 6件



編集・監修 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会



日本小児アレルギー学会作成、滝沢琢己、他監修。協和企画、2023。



橋本圭司、他監修。医学書院、2021。



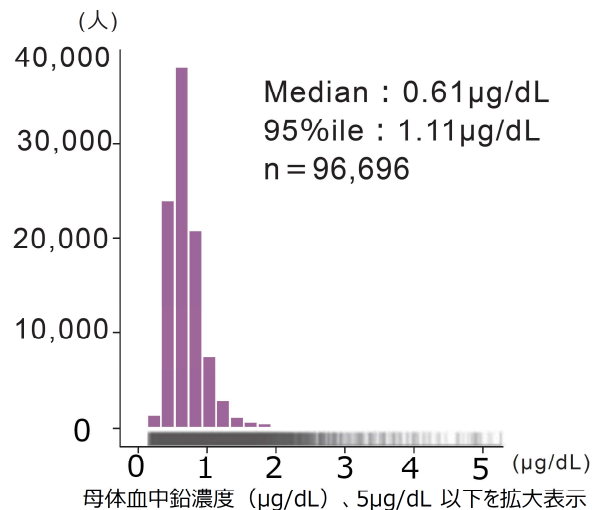
日本小児アレルギー学会作成、海老澤元宏、他監修。協和企画、2021。



「食物アレルギーの診療の手引き2020」
<https://www.foodallergy.jp/wp-content/themes/foodallergy/pdf/manual2020.pdf>

活用事例

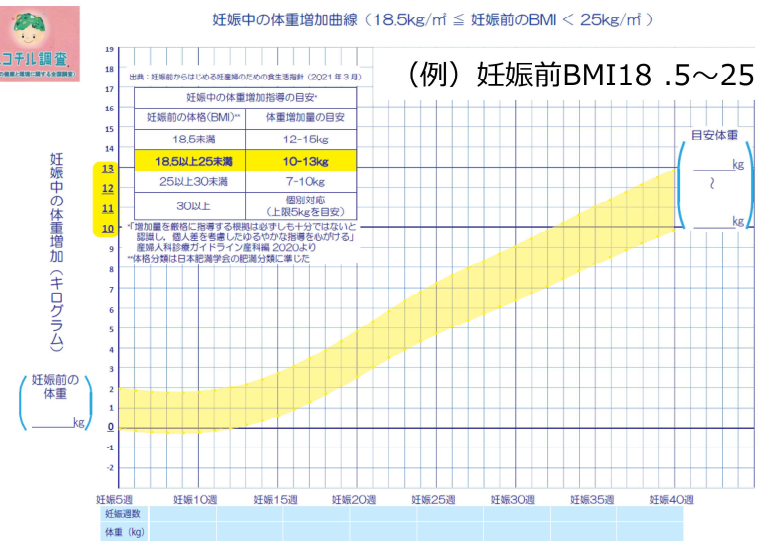
「評価書 鉛（2021年6月食品安全委員会）」
妊婦（約10万人）の血中鉛濃度のデータを引用



エコチル調査の対象者（妊婦）の血中鉛濃度

出典：「評価書 鉛」（内閣府食品安全委員会）の図を元に作成
(https://www.fsc.go.jp/osirase/lead_and_health_assessment.html)

「妊娠中の体重増加曲線（妊娠前BMI別）
（2021年9月報道発表）」
妊婦（約10万人）の健診情報を用いて妊娠前BMI別に4通り作成



出典：国立成育医療研究センター
ホームページプレスリリースより(2021年9月28日)
(<https://www.ncchd.go.jp/press/2021/210928.html>)

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

環境省の取組について

令和6年9月4日

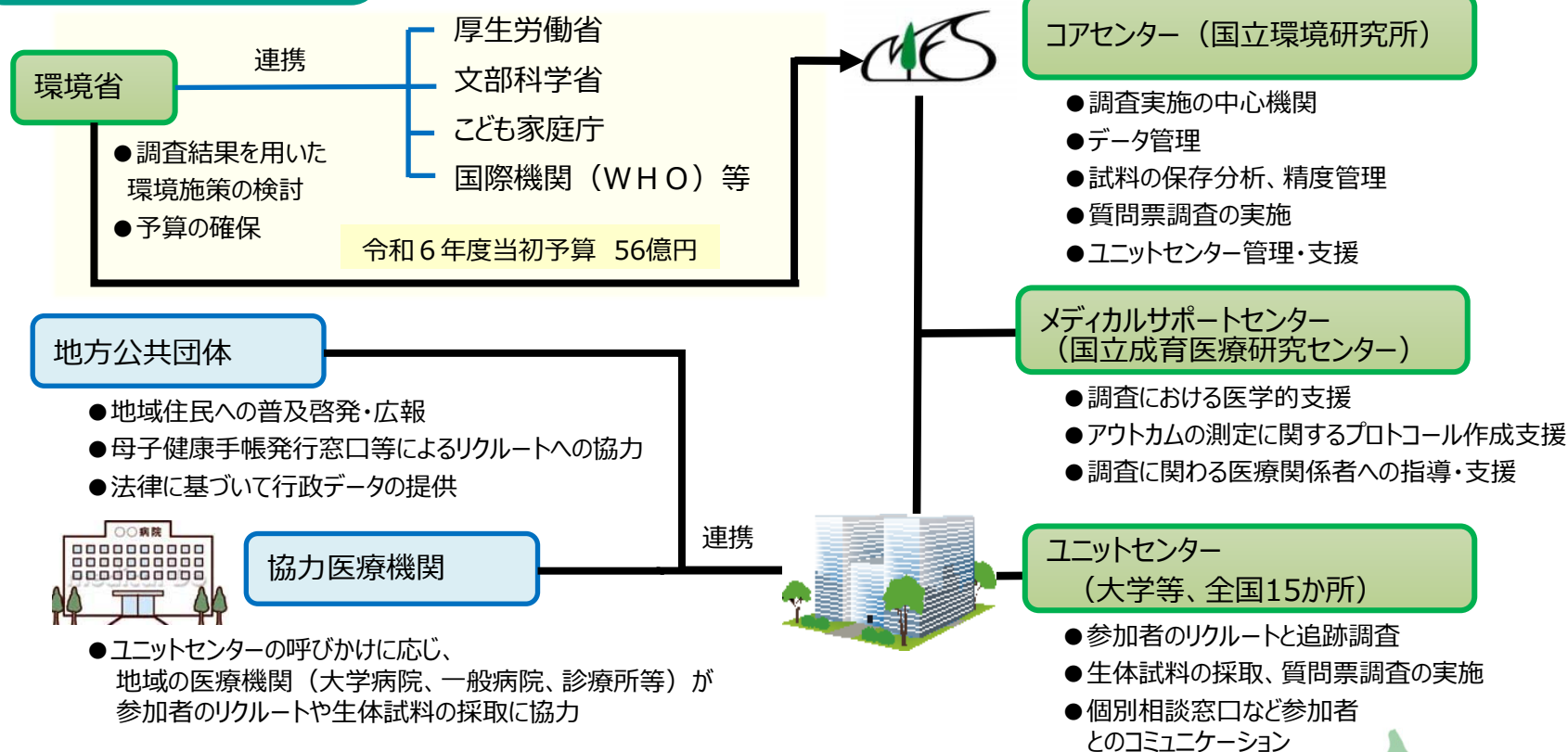
環境省 環境保健部化学物質安全課 環境リスク評価室



1. 実施体制
2. 運営体制
3. エコチル調査の予算
4. 政府戦略等におけるエコチル調査の位置付け
5. 企画評価
6. 国際連携
7. 広報活動
8. 倫理審査

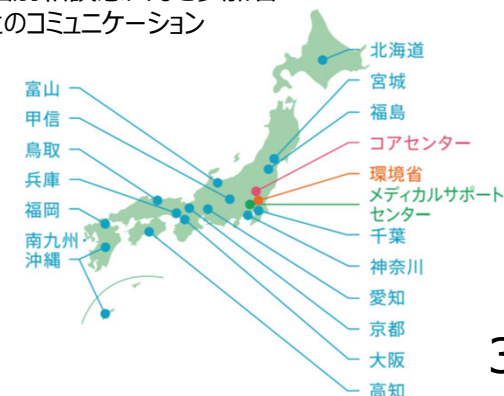
1. 実施体制

エコチル調査の実施体制



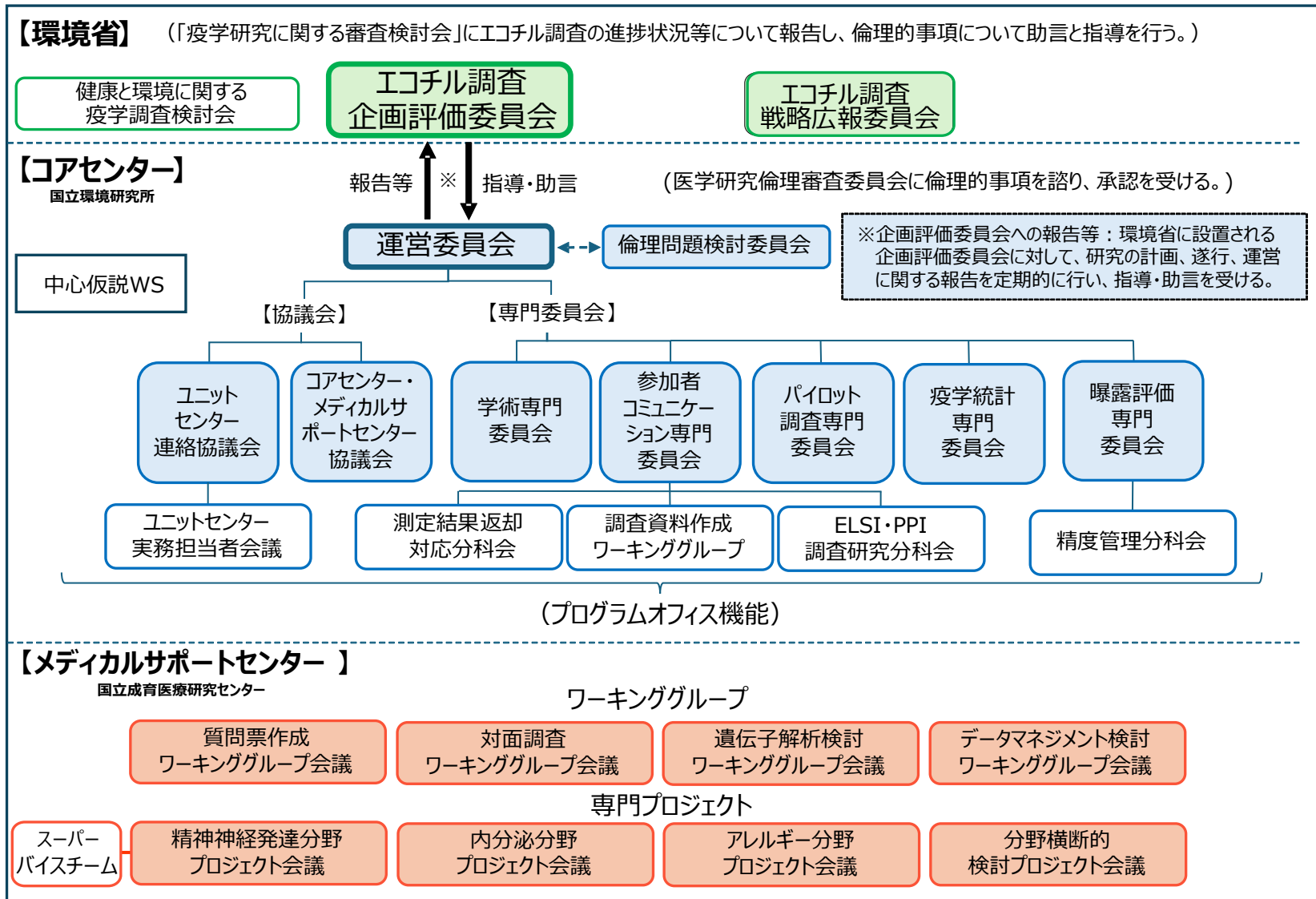
エコチル調査における環境省の役割

- 本調査で得られた成果等を用いた環境政策の検討
- 調査等を推進するための予算の確保
- 関係各省庁、国際機関等との連携
- 国民に対する広報
- 情報発信等の成果の社会還元



2. 運営体制

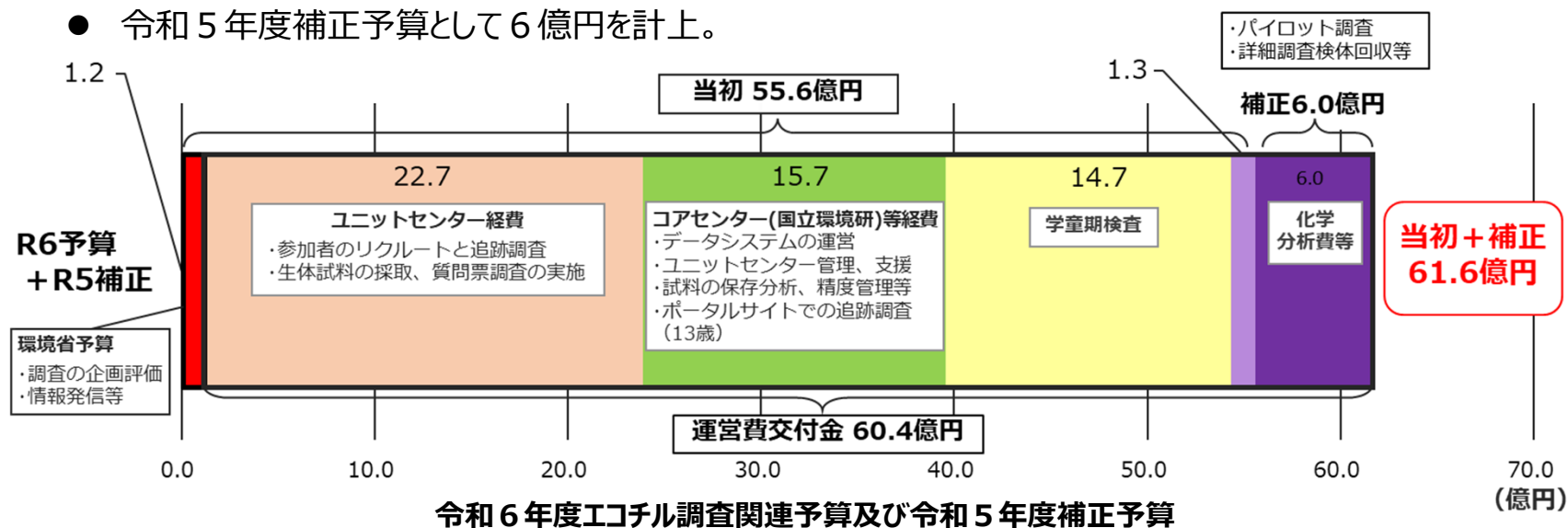
エコチル調査の運営体制



3. 予算

年度当初予算等

- 令和6年度当初予算：約56億円を計上。
- 追跡調査、詳細調査（環境調査、医学的検査、精神神経発達検査）、成長過程における化学物質ばく露等を評価する「学童期検査」の継続、これまでに採取した生体試料の化学分析の実施、研究成果を社会に還元する「広報事業」、「地域の子育て世代との対話事業」の実施予算
- 令和5年度補正予算として6億円を計上。



【これまでの予算額】(億円)

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
当初予算	31	46	45	40	47	45	45	45	51	59	55	56	56	56	56
補正予算等	—	16	21	10	12	13	13	9	—	5	6	6	6	6	—

4. 政府戦略等におけるエコチル調査の位置付け

新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2024改訂版（令和6年6月閣議決定）

IX. 経済社会の多極化

1. 地方創生とデジタル田園都市国家構想の実現

（3）デジタル田園都市国家構想の前提としての安心の確保

④持続可能な地域経済社会の実現

（略）

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）を効率的・効果的に推進する。

こどもまんなか実行計画2024（令和6年閣議決定予定）

Ⅲ こども施策を推進するために必要な事項

2 こども施策の共通の基盤となる取組

（1）「こどもまんなか」の実現に向けたE B P M

（こども施策の推進に資するエビデンスの構築）

（略）

エコチル調査の推進

こども施策に関するデータの整備、エビデンスの構築を行うため、胎児期から小児期にかけての環境要因がその後の健康に与える影響を明らかにするための調査である「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を着実に進める。得られた成果を、関係省庁や地方公共団体等に共有することで、ガイドライン・事業の策定・改定など関連するこども施策につながることを期待される。【環境省】

※こども大綱（令和5年12月閣議決定）に基づく

第六次環境基本計画（令和6年5月閣議決定）

第1部 環境・経済・社会の状況と環境政策の展開の方向

第1章 環境・経済・社会の現状と課題認識

4 環境面の主に30年の振り返りと課題認識

（5）環境汚染及び化学物質管理の変遷と課題

（略）国際的には、化学物質が健康に与える影響の解明に資する疫学調査がいくつかの国で実施されており、我が国において約10万組の親子に協力を得て実施されている「エコチル調査」は、大規模疫学調査として、その成果の活用が期待されているところである。

第3部 環境保全施策の体系

第1章 環境問題の各分野に係る施策

5 包括的な化学物質対策に関する取組

（2）情報に基づく意思決定と行動を支援する知識・データ・情報が作成され利用が可能となりアクセスできる状態の確保

③ ばく露モニタリング

各種モニタリング等の効率的な利用を図る。具体的には、環境中の化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を解明することにより、適切なリスク管理体制を構築し、安全・安心な子育て環境の実現につなげることを目指し、約10万組の親子を対象とした大規模かつ長期の出生コホート調査を着実に実施する。

（3）懸念課題への対応

人の健康の保護の観点から、その目標値や基準、管理の在り方等に関し国際的にも様々な科学的な議論が行われ、社会的に関心が高まっているPFASについては、引き続き「エコチル調査」において健康影響に関する知見を集めるとともに、一般的な国民のばく露状況の経年変化等を把握するための血中濃度調査や環境モニタリングを実施する。（略）

5. 企画評価（令和5年度の取組）

企画評価委員会における検討

- 企画評価委員会においてエコチル調査の企画評価の事項に関する検討。
（企画評価委員会の下に設置する評価ワーキンググループで年次評価書案を検討。）

委員会・ワーキンググループ	検討事項
令和5年度第1回企画評価委員会 （令和5年9月13日（水）開催）	● エコチル調査の実施状況について報告 ● エコチル調査の第四次中間評価について
令和5年度評価ワーキンググループ （令和6年1月17日（水）開催）	● 第四次中間評価書案の作成 ● 令和6年度年次評価方法の検討
令和5年度第2回企画評価委員会 （令和6年3月6日（水）開催）	● エコチル調査の実施状況について報告 ● エコチル調査の第四次中間評価書について ● エコチル調査の令和6年度年次評価について ● 生体試料分析対象物質候補（令和7年度）について了承

5. 企画評価（令和5年度の取組）

エコチル調査実施機関の評価

- 各調査実施機関による自己点検を実施し、実地調査等により評価に資する情報を収集し、企画評価委員会において検討。各機関（環境省、コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンター）を評価。

令和5年度企画評価委員会（第四次中間評価）

第1回企画評価委員会
【評価方法の確認】

令和5年9月13日（水）開催

評価ワーキンググループ
【評価案の作成】

令和6年1月17日（水）開催

第2回企画評価委員会
【評価の確定】

令和6年3月6日（水）開催

実地調査（環境省）

【評価対象となる情報の収集】

令和5年8月31日（木）～12月15日（金）実施

複数の評価視点に基づき、実地調査を行う。

- ・ フォローアップの進捗状況
- ・ 詳細調査の実施状況
- ・ コミュニケーション活動
- ・ 個人情報管理の状況 など

収集した
データを
報告

エコチル調査実施機関への支援

- 調査現場における様々な課題の解決を支援するため、年次評価で収集した「PDCAサイクルに基づく優良な取組」を好事例集として取りまとめ、ユニットセンターに配布。

6. 国際連携（令和5年度の取組）

国際連携に係る取組

- 環境省においては各国の大規模出生コホート調査との連携等の政策的な国際連携を推進。
（※国際連携に関する学術的な取組は、令和3年度に国立環境研究所エコチル調査コアセンターに移管。）
- 現在の主な取組として、「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ」に支援・参加。

環境と子どもの健康に関する国際作業グループ

(Environment and Child Health International Group : ECHIG)

- 目的：** メンバー間における情報交換、研究プロセスのハーモナイゼーションにより、調査手法の比較、データ統合解析調査結果の複合解析（combined analysis）、データ・プーリングの手順を開発すること
- 参加者：** 日本、ドイツ、ノルウェー、デンマーク、フランス、中国、米国の大規模コホート調査等に所属する専門家
世界保健機関（WHO）の国際がん研究機関（IARC）が事務局として参加
- 取り組み：** 隔月でWEB会議、年1回対面会合を開催等

第18回対面会合	日程：令和5年11月14日～15日 場所：フランス・リヨン
第19回対面会合 （予定）	日程：令和6年11月21日～22日 場所：フランス・リヨン



出典：<https://governance.iarc.who.int/>

7. 広報活動（令和5年度の取組）

- 【目的】 調査対象者や医療機関・研究者に加えて、広く一般の方々にエコチル調査を理解してもらい、調査参加者に長期にわたる追跡調査に継続して参加してもらえるような意識を醸成すること及び調査成果の正確な情報発信・社会還元を図る。

シンポジウムの開催

- 最新の研究成果や今後の展望等の紹介を通じて、国民のエコチル調査への理解を促進すること、参加者の継続意識の向上につなげることを目的として、年1回、シンポジウムを開催。

令和5年度	■ 令和6年2月18日（日）に第13回シンポジウムを開催 ■ 会場参加とライブ配信のハイブリット開催 ■ 当日来場人数62名（小学生以下12名）、最大同時視聴者数（ライブ配信時）123名、2月26日時点の視聴回数521
令和6年度	■ 第14回エコチル調査シンポジウムの開催（予定） ■ 日時：令和7年1月または2月、開催方法：検討中



エコチル調査の成果の情報発信

（出産・子育てに関する情報メディアとのタイアップ）

- 妊娠・育児期の方やその関係者等を対象に、エコチル調査の成果等に関する分かりやすい記事を作成、WEBサイト（たまひよWEB版）に掲載（令和5年度：計3回）。

掲載日	記事タイトル・URL	ページビュー数
令和6年 2月5日 ～3月4日	「湿疹」「アトピー性皮膚炎」… ●●生まれは要注意!? 生後6カ月までの「季節」と「発症」に関係があるって本当?【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ikuji/content/?id=184225	29,632
令和6年 2月13日 ～3月12日	“気になる研究結果” 妊娠前からの「朝食抜き」習慣が、妊娠糖尿病につながるかも!?【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=184243	20,775
令和6年 2月16日 ～3月15日	出生体重に影響も…「少なすぎも多すぎもダメ！」赤ちゃんの成長にちょうどいい「たんぱく質」量って?【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=184731	25,395



※不許転載（2次利用はご遠慮ください）

7. 広報活動（令和5年度の取組）

地域の子育て世代との対話

【目的】子育てに関わる関係者が化学物質のリスクについて対話し、寄り添い支え合う環境を作る、いわゆるリスクコミュニケーションを行うことにより、化学物質のリスクについて向き合うことが可能な機会が広がり、上手に向き合うことが可能となる社会を目指す。



（1）地域における対話の実践例の創出

- 地域での**双方向性の対話**の実践を通じ、子育て世代等と化学物質のリスクとの上手な向き合い方の実践活動を促進。

（2）好事例集の更新

- 効果的な地域対話の取組の横展開に資する**事例集**に事例を追加。

（3）対話事業に関する研修手法の開発

- ユニットセンター担当者に対する**リスクコミュニケーション研修**の開催。

（4）成果紹介パンフレットの更新

- エコチル調査に関係する化学物質やその健康影響の一般的な内容や、エコチル調査の研究成果をわかりやすく伝えるパンフレットを更新。

日程	場所	対象 (人数)	講師等 (敬称略)
1/27 (土)	山梨県 身延町	教育 関係者 (8名)	篠原亮次、三宅邦夫 (エコチル調査甲信ユニットセ ンター) 協力：文珠紀久野 (山梨県立大学名誉教授)
2/11 (日)	大分県 大分市	小中学生 (17名)	井上高教 (大分大学理工学部教授) 辻真弓、菅礼子 (エコチル調査産業医科大学 サブユニットセンター) 協力：体験型子ども科学館 O-Labo
2/17 (土)	東京都 千代田区	教育 関係者 (5名)	大矢幸弘 (エコチル調査メディカルサ ポートセンター) 森田和良 (文京学院大学人間学部児 童発達学科特任教授)

7. 広報活動（令和5年度の取組）

13歳以降の調査の準備

- 調査の概要や継続の意義等に関する動画を作成、配信。
- 令和5年7月にエコチル調査実施機関に配布、同9月からYouTubeの環境省動画チャンネルにおいて公開。



【エコチル調査ってなんだろう？～13歳以降の調査に向けた環境省からのメッセージ～】

<https://youtu.be/oxH7oF1SW30?list=PL9Gx55DGS7x6yKKb96NZGo0XmEJ73MMJ0>

- その他、エコチル調査の概要を解説したパンフレットの更新・配布など。



関係機関等との連携・情報共有

- 成果に係る報道発表やエコチル調査に係るシンポジウムや企画評価委員会の開催情報等を、関係行政機関や関係学会に情報共有。

◆ 関係行政機関：

内閣府、消費者庁、こども家庭庁、文部科学省、スポーツ庁、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省内

◆ 関係学会：

（公社）日本産科婦人科学会、（公社）日本産婦人科医会、
（公社）日本小児科学会、（公社）日本小児保健協会、
（公社）日本小児科医会、（一社）日本小児期外科系関連学会
協議会、（一社）日本学校保健学会

- 関係機関等との連携としてエコチル調査の概要や成果等について講演。

令和5年4月21日 令和5年度地方公共団体化学物質対策担当者説明会

令和5年10月23日（月）～11月27日（月）講演動画公開期間
ケミカルマテリアルJapan2023-ONLINE-

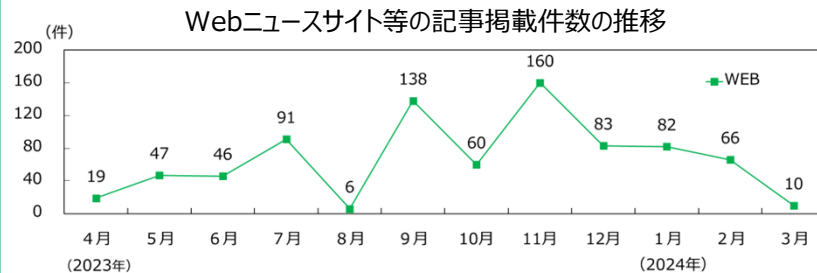
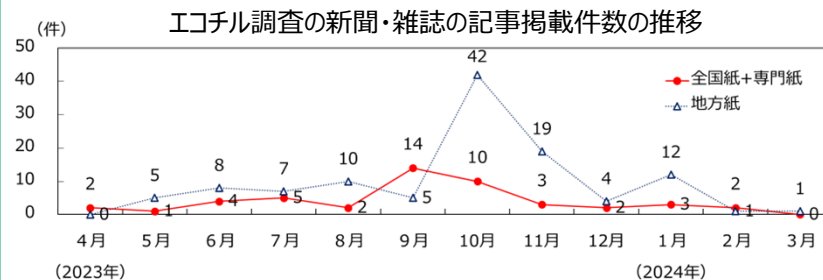
令和6年3月15日 第8回アレルギー疾患対策関係省庁連絡会議

7. 広報活動（令和5年度の取組）

広報活動の効果測定

（1）Webニュース・新聞・雑誌・テレビモニタリング

- Webモニタリング（ニュースサイト等）、新聞・雑誌・テレビ記事検索により、エコチル調査の露出度を測定。
- 令和5年の件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
新聞・雑誌：162件 / テレビ：0件 / Webサイト：808件



（2）SNSモニタリング

- 令和5年度より、X（旧Twitter）の全公開ツイートから、「エコチル」、「子どもの健康と環境に関する全国調査」を含むツイート、リツイートを抽出。
- 令和5年の件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
エコチル調査に関するツイート件数：624件※
※リツイート数を除いた件数

（3）認知度状況等の把握

- 国民や医師を対象としたWEBアンケート調査により、エコチル調査の認知度状況等を把握。

	一般国民	医師
調査概要	調査期間：令和6年2月22日（木）～令和6年2月28日（水） 調査対象：20歳～69歳の男女 回答者数：4,983人 調査地域：47都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある18道府県と、その他の1都28県で調査	調査期間：令和6年2月22日（木）～令和6年2月26日（月） 調査対象：医師 ※日経メディカルOnlineの医師会員 回答者数：900人
結果概要	■エコチル調査の認知度 全国：7.0% 調査対象地域：7.7% 調査対象地域外：7.5%	■エコチル調査の認知度 全国：47.9% 調査対象地域：51.3% 調査対象地域外：41.9% ■調査を重要と考える人 84.1% ■調査に興味・関心がある人 68.1%

7. 広報活動（令和5年度の取組）

その他の取組

報道発表等の実施	- 論文発表時に、大学や国立環境研究所が報道発表し、環境省のホームページでも情報を公開。 - 正確な情報伝達のため、平成30年度に戦略広報委員会で報道発表のプロセスと資料の様式、チェックリストを作成し、関係者に周知して運用。
ホームページ等による情報提供	- エコチル調査の論文を一般向けにわかりやすく伝えるため、平成30年6月から和文抄録付きの成果発表一覧を掲載、随時更新。 - 中心仮説に関する論文の報道発表は、新着情報としてトップページに掲載。 - シンポジウムの動画や資料、対話事業の資料を掲載。 - ホームページのアクセス数を集計し、戦略広報委員会で広報戦略の基礎資料として活用予定。
エコチル調査サポーター登録	- 調査に対する社会全体の理解と応援を得る目的で、サポーター登録制度を設け、登録していただいた方には最新情報を掲載したメールマガジンを配信。 - 令和6年3月現在、サポーター数は3,560人、メールマガジンは通算109号。
展示物の活用	- 調査の認知度向上と内容理解促進を目的に、全国の科学館に貸出。 - 調査対象地域等においてエコチル調査関係者へ展示物の貸出。 - 令和5年度貸出数：科学館2箇所、ユニットセンター等1箇所。



8. 倫理審査

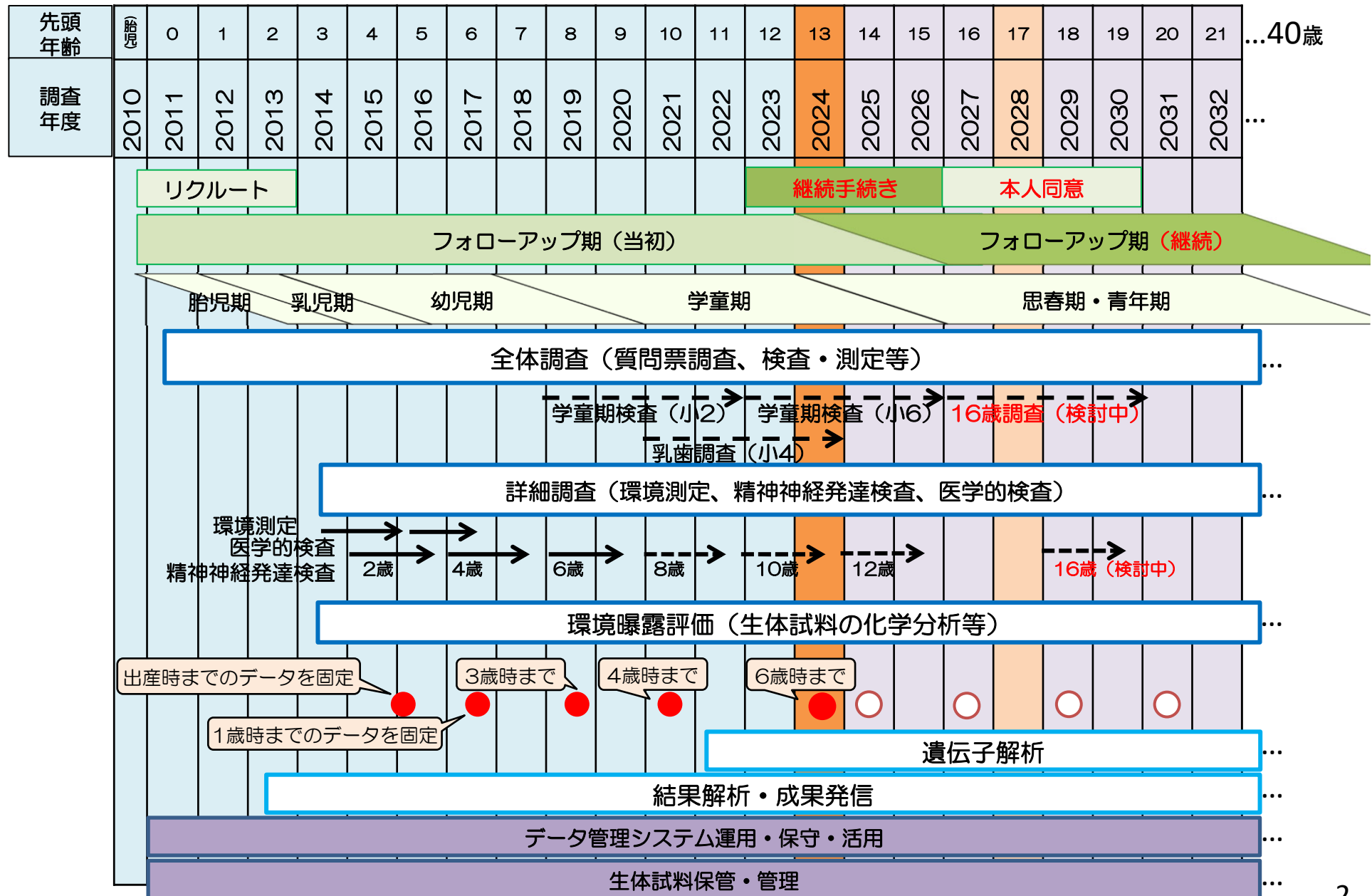
- 令和5年度の「第1回疫学研究に関する審査検討会」で、国立環境研究所エコチル調査コアセンターが調査の進捗を報告。
- 本年度も、「疫学研究に関する審査検討会」において、エコチル調査の進捗状況等について報告を行った。

エコチル調査の進捗について

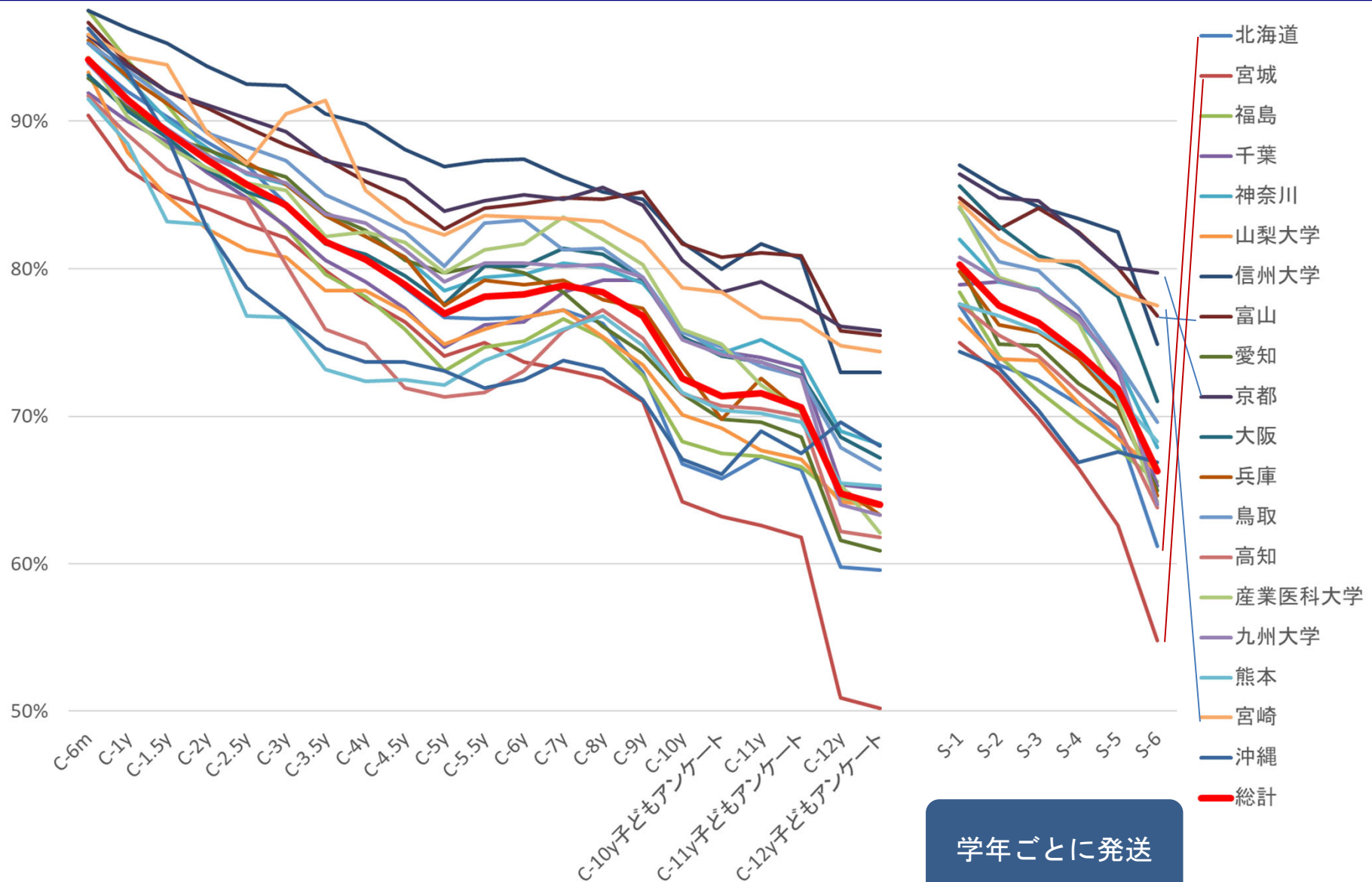
2024年9月4日

国立研究開発法人国立環境研究所
エコチル調査コアセンター

ロードマップ



これまでの質問票調査の回収率 (ユニットセンター別・2024年7月27日現在)



← 6か月

生後6か月以降、生まれ月を基準に発送

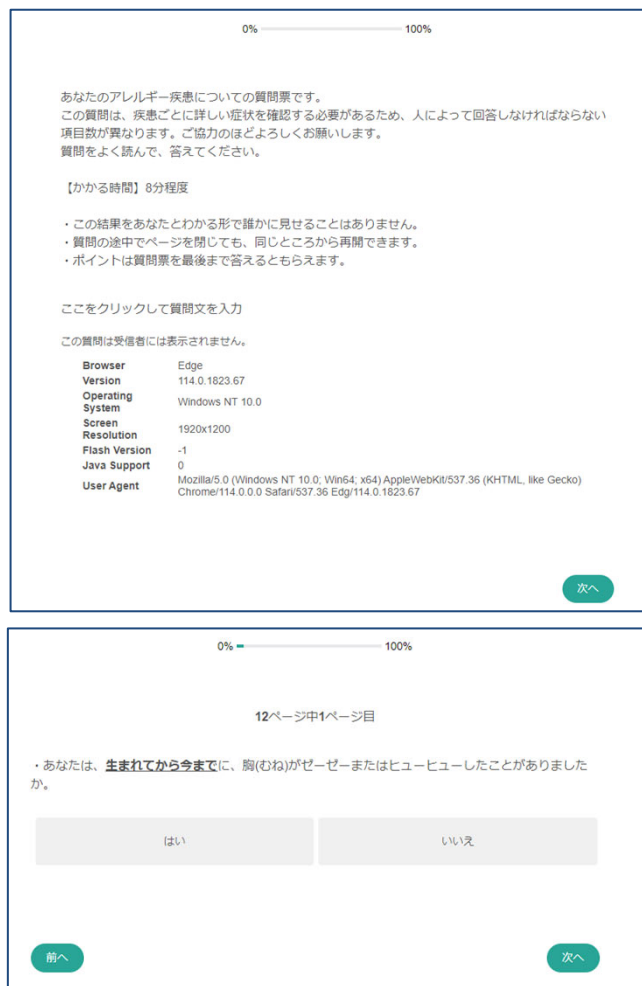
12歳 →

学年ごとに発送

← 小1 小6 →

中学1（13歳に達する年度）以降は、Web質問票に

PCの表示例



0% ————— 100%

あなたのアレルギー疾患についての質問票です。
この質問は、疾患ごとに詳しい症状を確認するため、人によって回答しなければならない項目数が異なります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。
質問をよく読んで、答えてください。

【かかる時間】8分程度

- ・この結果をあなたとわかる形で誰かに見せることはありません。
- ・質問の途中でページを閉じて、同じところから再開できます。
- ・ポイントは質問票を最後まで答えるともえます。

ここをクリックして質問文を入力

この質問は受信者には表示されません。

Browser	Edge
Version	114.0.1823.67
Operating System	Windows NT 10.0
Screen Resolution	1920x1200
Flash Version	-1
Java Support	0
User Agent	Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/114.0.0.0 Safari/537.36 Edg/114.0.1823.67

次へ

0% ————— 100%

12ページ中1ページ目

・あなたは、生まれてから今までに、胸(むね)がゼーゼーまたはヒューヒューしたことがありましたか。

はい いいえ

前へ 次へ

スマホの表示例



12:29 0% ————— 100%

あなたのアレルギー疾患についての質問票です。
この質問は、疾患ごとに詳しい症状を確認するため、人によって回答しなければならない項目数が異なります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。
質問をよく読んで、答えてください。

【かかる時間】8分程度

- ・この結果をあなたとわかる形で誰かに見せることはありません。
- ・質問の途中でページを閉じて、同じところから再開できます。
- ・ポイントは質問票を最後まで答えるともえます。

ここをクリックして質問文を入力

この質問は受信者には表示されません。

Browser	Edge
Version	114.0.1823.67
Operating System	Windows NT 10.0
Screen Resolution	1920x1200
Flash Version	-1
Java Support	0
	Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36 Edg/114.0.1823.67

12:29 0% ————— 100%

12ページ中1ページ目

・あなたは、生まれてから今までに、胸(むね)がゼーゼーまたはヒューヒューしたことがありましたか。

はい いいえ

前へ 次へ

13歳以降調査に関する継続の意思表示状況

2023年度に小6となった参加者（2024年7月29日時点）

	人数	%
総数	14,712	100
親権者・積極的意思表示	7,336	49.9
親権者・継続者総数	12,702	86.3
本人(子ども)・ログイン数	4,959	33.7

2024年度に小6となった参加者（2024年7月29日時点）

	人数	%
総数	27,289	100

※ 2024年7月から継続勧奨を開始。

収集した生体試料（実施中を含む）

赤字は収集中

種類	対象		量	目的	実施時期
血液	母親	妊娠初期	32 ml	生化学検査、化学分析など	2011-14
		妊娠中期	33 ml	生化学検査、化学分析など	2011-14
		出産時	18 ml	生化学検査、化学分析、遺伝子解析など	2011-14
	父親		32 ml	生化学検査、化学分析、遺伝子解析など	2011-14
	臍帯血		35 ml	生化学検査、化学分析、遺伝子解析など	2011-14
	子ども	出生時	ろ紙血	生化学検査など	2011-14
		2歳	4 ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析など	2015-16
		4歳	4 ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析など	2017-18
		6歳	10 ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析など	2019-20
		8歳	10ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析など	2021-22
		10歳	10ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析など	2023-24
		小学6	10ml	（学童期検査）生化学検査、化学分析など	2023-26
尿	母親	妊娠初期	35 ml	環境化学物質代謝物、化学分析	2011-14
		妊娠中期	25 ml	バックアップ	2011-14
	子ども	4歳	20 ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析	2017-18
		6歳	20 ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析	2019-20
		8歳	20ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析	2021-22
		10歳	10ml	（詳細調査）生化学検査、化学分析	2023-24
		小学2	20 ml	（学童期検査）生化学検査、化学分析	2019-22
		小学6	10ml	（学童期検査）生化学検査、化学分析	2023-26
母乳	母親		20 ml	化学分析	2011-14
毛髪	母親、子ども		1 mg	化学分析（水銀）	2011-14
乳歯	子ども		2本	化学分析	2021-25

生体試料の化学分析の実施状況

赤字は測定中

実施年度	媒体		対象物質	検体数	状況
2014-17	母（妊娠期間）	血液	金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se）	95811	完了
2018	出産時	臍帯血	金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se）	3897	完了
2014-17	母（妊娠期間）	尿	喫煙マーカー（コチニン）、ストレスマーカー（8-OHdG）	96490	完了
2017	母（妊娠期間）	血液	有機フッ素系化合物（PFAS）	25000	完了
2018	出産時	臍帯血	メチル水銀（Me-Hg）、無機水銀（I-Hg）	3897	完了
2018	母（妊娠期間）	尿	フェノール類	10000	完了
2018	母（妊娠期間）	尿	有機リン系農薬代謝物	5727	完了
2018-19	母（妊娠期間）	尿	フタル酸エステル代謝物	19999	(配布準備中)
2019	母（妊娠期間）	尿	ネオニコチノイド系農薬	20000	(配布準備中)
2020	母（妊娠期間）	尿	形態別ヒ素	5039	(配布準備中)
2020	出産時	臍帯血	有機フッ素系化合物（PFAS等）	5001	(配布準備中)
2020	母（妊娠期間）	血液	芳香族炭化水素受容体活性	4956	(配布準備中)
2020	母（妊娠期間）	血液	残留性有機汚染物質（PCBs、DDTs、PBDEs）	13000	(配布準備中)
2021	母（妊娠期間）	尿	ピレスロイド系農薬代謝物	10013	(配布準備中)
2021	児（詳細調査4歳）	血液	有機フッ素系化合物（PFAS等）	5010	(配布準備中)
2022	母（妊娠期間）	尿	農薬および忌避剤	5000	(配布準備中)
2022-23	母（妊娠期間）	尿	リン系難燃剤	10000	精度管理中
2022-23	父（妊娠期間）	血液	金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se）	2500	精度管理中
2023	児（詳細調査8歳・小2）	尿	喫煙マーカー（コチニン）	10000	精度管理中
2023	母（妊娠期間）	血液	アクリルアミド	5000	精度管理中
2024	児（詳細調査8歳）	血液	有機フッ素系化合物（PFAS等）	5000	測定中
2021-25	小児脱落乳歯	歯	金属・元素	35000	測定中

遺伝子解析の状況

- 2022年3月、参加者に「ゲノム・遺伝子解析についての説明書」を送付し、2022年8月末まで協力辞退申請書を受け付けた（辞退3,199件、母親、父親、臍帯血の総数）。
- 2022年9月以降、臍帯血試料から抽出したDNA試料約8万1千検体の網羅的DNA塩基多型解析を実施した。
- 2024年9月末に、バイオバンクジャパン等から提供されたホールゲノムシーケンスデータを用いて、インピュテーションが完了する見込み。今後、フラッグシップ論文を執筆し、要約統計量を公開する予定である。

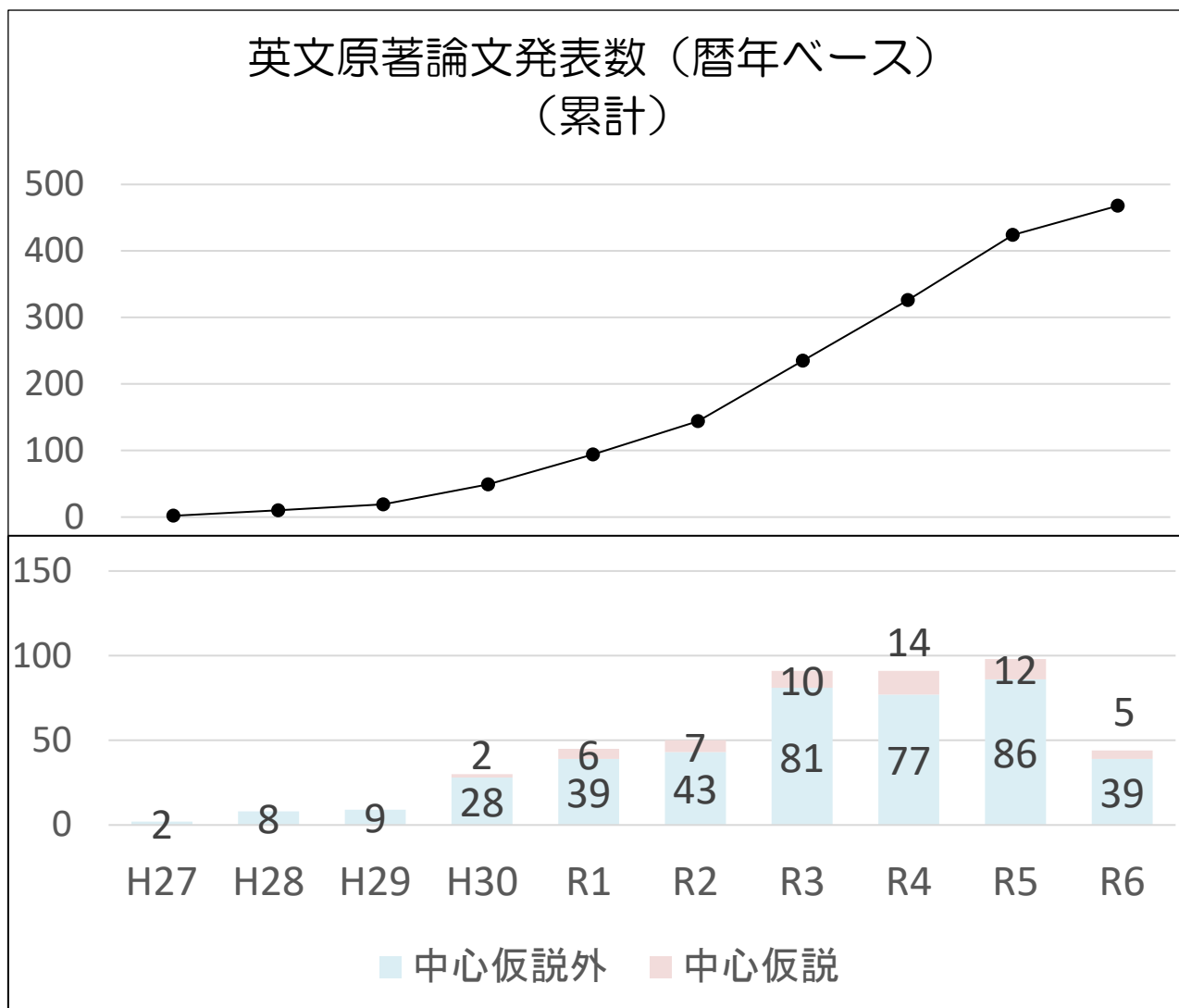
エコチル調査関係者外へのデータ共有について

- エコチル調査関係者外へのデータ共有に向け、**データ共有実施計画書**を定め（2021年9月）、エコチル調査コアセンター内に環境保健情報オフィスを設置（2022年1月）し、申請登録に関わる規程類等の仕組みづくりを進めてきた。また、事務局業務の運営に関わる整備（**エコチル調査データ共有規程**の整備（2024年2月）など）や、データ共有システムの構築を進め、**データ共有のための手続きを開始**した。

情報発信と成果利活用の推進

- 英文原著論文468編（うち、中心仮説56編）

（2024年7月までの集計）



近日発表した環境と健康に関する論文

(注) 日付は報道発表日

PFASと川崎病（2023年12月） Environment International

妊娠中母の血中PFAS濃度と4歳までの川崎病の発症について約25000名を分析、この解析においては統計学的な関連なし。

PFASと喘息（2023年12月） Environmental Research

妊娠中母の血中PFAS濃度と4歳までの喘鳴と喘息症状の有無について約18000名を分析、この解析においては統計学的な関連なし。

ネオニコチノイド系農薬と子どもの発達（2023年11月） Environment International

妊娠中母の尿中ネオニコチノイド系農薬等と4歳までの子どもの発達指標（保護者記入式質問票）との関連について約8500名を分析、この解析においては統計学的な関連なし。

フェノール類の濃度（2024年4月） Environment International

妊娠中母の尿中フェノール類（ビスフェノールA（BPA）など9種類）について約4600名を分析、それらの濃度は国内外の先行研究で報告された濃度と同程度かそれより低いものであることを示した。また、BPAの平均推定一日摂取量は耐容一日摂取量の10分の1から100分の1程度であった。

情報発信



【動画】ゲノム・遺伝子解析研究が始まります



GO!GO!エコチル調査キッズ探検隊～潜入！コアセンター～

【国立環境研究所「夏の大公開2021」で公開された特別企画動画】子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）では、どんな研究が行われているのか！？キッズ探検隊が、コアセンターの試料保管庫やラボに潜入します。



トップページ > 広報活動 > 新着情報 > 2022年度 > 胎児期の鉛と小児期早期の神経発達との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について



胎児期の鉛と小児期早期の神経発達との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について



いっしょにつくろう！ 私たちの未来、健康、支える環境

会場&オンライン開催

エコチル調査コアセンターオリジナルキャラクター エコロン&チルン

第13回 子どもの健康と環境に関する全国調査 エコチル調査シンポジウム

エコチル調査は、環境中の化学物質が子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくるための調査です。



いがらし みき
五十嵐 美樹 さん



むらさき はる
村山 穂星 さん

エコチル調査は2011年にスタートし、調査がはじまった時にはお母さんのおなかの中にいた赤ちゃんも、2023年には最年長の方が12歳に。全国約10万組の親子のみなさまのご協力によって、健康と環境の関係についてたくさんことがわかってきました。今回はお子さまたちにも楽しんでいただけるサイエンスショーから始まり、調査でわかったことをご紹介します。お子さまも大人も、五十嵐さんときりちゃんといっしょに私たちの未来、健康、環境について考えていきましょう！

プログラム (司会)武田 真梨子(サイエンスコミュニケーター)

14:00

オープニング(環境省)
サイエンスエンターテイナー 五十嵐美樹さんの
サイエンスショー with エコチル調査



開催日時

2024年 **2月18日** 12
14:00～16:00 (13:00受付開始)

令和6（2024）年度年次評価の進め方について （概要）

令和6年度年次評価実施方法

第一回企画評価委員会

- エコチル調査の実施状況の報告
- 令和6年度年次評価方法の確認

【評価対象となる情報の収集】：環境省

- ① エコチル調査の各実施機関と環境省がそれぞれ自己点検を実施
- ② 環境省が各調査実施機関の実地調査※を実施、個人情報管理状況等を確認
- ③ ユニットセンターが、「PDCAの取組」や「学術論文」について優れたユニットセンターを複数推薦(他薦)

収集したデータを報告

評価ワーキンググループ

- 令和6年度年次評価書案の作成
- 令和7年度年次評価方法の検討

【評価案の作成】：評価ワーキンググループ

- ④ 評価ワーキンググループが、①②③の情報をもとに、ユニットセンターの総合評価（SABC）案を審議
- ⑤ 同じく、評価書案を作成

第二回企画評価委員会

- 令和6年度年次評価書案の審議
- 令和7年度年次評価方法の審議

【評価の確定】：企画評価委員会

- ⑥ 企画評価委員会が評価書案を審議、評価書を取りまとめ

※実地調査は、現地訪問やWeb会議システムを用いたヒアリングにより実施する。

ユニットセンターの総合評価(SABC)の考え方

総合 評価

- S** : ◎が5個以上あり、且つ、フォローアップ状況の◎が4個
A : ◎が3個以上ある（学術論文等の発表を除く）
B : ◎が1個又は2個ある（学術論文等の発表を除く）
C : ◎がない又は2回以上（年度をまたぐ場合も含む）同じルール違反がある

※ 但し、ルール違反等があった場合は◎が3個以上の場合でもB以下となる

評価指標		評価方法（◎等をつける視点）		データの情報源
フォローアップ状況 年齢別質問票とともに学年別質問票を評価対象に追加	質問票の回収状況	■ 回収率がUC ¹⁾ 全体の平均以上の場合	◎	自己点検結果、 質問票回収状況 （コアセンター資料）
		■ 回収率を標準偏差（SD）から評価し、2年継続して回収率が全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上の場合	◎	
	回収率の維持	■ 直近の回収率の減少が出生後6ヶ月より●%未満 ²⁾ の場合	◎	
	回収率の改善	■ 質問票の回収率が前年度より改善されている場合	◎	
業務全般の取組状況 （PDCAの取組） 右の二つの観点から優れた取組がみられた場合、それぞれに加点		■ 「参加者（子どもを含む）の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」	◎	UCによる他薦
		■ 「成果の社会還元」	◎	UCによる他薦
エコチル調査の成果		■ エコチル調査の研究成果や活動に対し学会等から表彰・褒章があった場合	◎	自己点検結果
		■ 特に優れた学術論文や成果発表があった場合 ³⁾ （論文数や論文の質 ⁴⁾ 等を総合的に評価）	◎	UCによる他薦
エコチル調査ルールの 遵守及び管理状況		■ 個人情報の管理状況にルール違反があった場合	×	自己点検結果、 実地調査
		■ 成果発表ルールの違反があった場合（軽微な違反を除く ⁵⁾ ）	×	

1) UC:ユニットセンター。

2) エコチル調査全体の回収率の減少率を基準とし、年度により可変。令和5年度年次評価では20.0%未満。

3) S評価の判定にのみ考慮。フォローアップに優れ、かつ特に優れた学術論文や成果発表があったUCをS評価とするための加点要素。

4) インパクトファクターや学会等における表彰などを参考にする。

5) エコチル調査の成果を発表する上で重大な問題となることが想定される場合を対象とする。届出・報告の遅延などは軽微な違反と見なし、注意喚起を実施することとし、総合評価における減点の対象とはしない。なお、注意喚起への対応が不十分である場合などはこの限りではない。

令和6(2024)年度 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) 令和6年度年次評価の進め方について

1. 背景

エコチル調査の実施状況の評価については、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施している。

企画評価委員会では、こうした評価体系の中で、環境省及び実施機関が一体となった事業として、エコチル調査全体について、第三者的な観点から評価を行うこととしている。

エコチル調査は、学術論文の発表や国民に対する情報発信など、調査成果の社会還元をより一層推進する時期を迎えているため、エコチル調査の評価を行う上では、これらの取組についてより重点的に、情報収集や評価を実施することが重要となる。

このような背景を踏まえ、令和元年度より、エコチル調査評価ワーキンググループを拡充し、以下の新たな評価方法を取り入れ、令和元年度の年次評価を実施した。

- ・アウトリーチ活動を重点的に評価
- ・ユニットセンターにおける論文執筆状況について評価
- ・評価 WG において関係機関からヒアリングを実施

令和2年度～令和4年度は、各実施機関の自己点検、実地調査(Web ヒアリング)の結果等に基づき、エコチル調査の取組や個人情報の管理状況等に関する評価を引き続き継続した。評価に当たっては、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、エコチル調査では学童期検査や詳細調査等を一時的に中止するなど大きく諸活動が制限されたこと、また、ユニットセンターの中には令和2年7月豪雨によって被災した地域もあったことを踏まえ、こうした状況の影響も考慮した。

令和5年度は、学童期におけるフォローアップが後半に入ること、また、令和4(2022)年度に基本計画が改定され、参加者が13歳以降18歳に達するまで調査を継続していくことを踏まえ、フォローアップの進捗状況等の中間評価を行った。

令和6年度は、令和5年度の評価方法を継続する。具体的には、各実施機関の自己点検、実地調査の結果等に基づき、エコチル調査の取組や個人情報の管理状況、13歳以降の参加者を対象とする調査の実施に向けた準備状況の評価する。また、「参加者(子どもを含む)の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」、「成果の社会還元」といったエコチル調査の課題に応じた評価指標を基に評価を行う。

2. 年次評価の主な方法

(1) 実地調査

令和5年度までの年次評価と同様に、実地調査チェックリストに基づき、コアセンターと環境省が連携して、個人情報管理の状況、データ利用及び成果発表のルールの順守状況等を確認する。その際、各ユニットセンターの負担や公平性に留意し、通年において評価可能である項目等について実地調査を実施することとする。

実地調査は、現地訪問や Web 会議システムを用いたヒアリングにより実施する。

(2) 評価書案の検討

事前に、環境省及び各実施機関は自己点検を実施し、実地調査結果や自己点検結果を踏まえ、評価書案を作成した上で、評価ワーキンググループにおいて審議する。

3. 評価の視点について

これまでの年次評価も踏まえ、以下の視点から環境省及び調査実施機関を評価し、また、ユニットセンターの総合評価を実施する。

<評価の視点>

- フォローアップの進捗状況等
- 13歳以降の調査に向けた準備状況
- 学童期検査、詳細調査の実施状況
- 個人情報管理の状況
- データ利用及び成果発表のルールの順守状況
- 研究(追加調査等)の体制及び実績(人材育成を含む)
- 調査結果に関する広報活動の状況
- 環境政策・施策への反映
- コミュニケーション活動(リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を含む)
- エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章、学術論文の発表状況
- 調査実施のための組織体制の妥当性
- その他(第四次中間評価書を受けての取組状況)

<ユニットセンターの総合評価指標>

- 基礎的な要素として、現参加者率、質問票回収率などのフォローアップ状況の評価
- 加点要素として、
 - ・ PDCAの観点を踏まえた「参加者(子どもを含む)の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」の取組(ユニットセンターの互選を踏まえた評価)
 - ・ PDCAの観点を踏まえた「成果の社会還元」に係る取組(コミュニケーション活動、アウトリーチ活動等)(ユニットセンターの互選を踏まえた評価)
 - ・ エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章
- さらに、
 - ・ 学術論文の執筆状況に係る取組状況(ユニットセンターの互選を踏まえた評価)
- エコチル調査ルールの遵守及び個人情報の管理状況等の評価

4. その他

学童期検査・詳細調査の実施率については、地域によって対象人数が異なること、また、新型コロナウイルスの感染状況及び調査の進捗への影響等が地域によって大きく差異があったことを踏まえ、総合評価の対象とはしない。

過年度に続き、PDCAの考え方を加点要素として評価する。ユニットセンターの互選により、「参加者(子どもを含む)の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」に係る取組に優

れたユニットセンター、「成果の社会還元」に係る取組に優れたユニットセンターをそれぞれ選出し、当該ユニットセンターの評価に加点する。

令和6(2024)年度 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) 令和6年度年次評価に関する実施要領

1. はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)は、国の予算を用いて実施される長期・大規模の疫学調査であり、その実施に当たっては、科学的、第三者的な観点からの評価を行うことが不可欠である。

エコチル調査においては、調査の実施に関する企画立案及び評価を行うため、外部の専門家からなる企画評価委員会を環境省に設置しており、同委員会において、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、エコチル調査の評価を実施することとする。

エコチル調査は、環境省が企画し、コアセンター(国立環境研究所)が実施主体となって、メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)及びユニットセンターとの協働により実施しており、エコチル調査の実施状況の評価についても、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施されることとなる。本委員会では、こうした評価体系の中で、環境省及び実施機関が一体となった事業として、エコチル調査全体について、第三者的な観点からの評価を行うこととする。また、エコチル調査の進捗に準じ、学術論文の発表や国民に対する情報発信など、調査成果の社会還元をより一層推進する時期であるため、エコチル調査の評価を行う上では、これらの取組についてより専門的に、情報収集や評価を実施することが重要となる。

2. エコチル調査全体の評価スケジュール

当初の研究計画書においては、エコチル調査の実施期間は、平成 23(2011)年1月から令和 15(2023)年度まで(3年間の参加者募集登録(リクルート)期間、13 年間の追跡(フォローアップ)期間、5年間の解析期間)についての計画が記述されていたが、令和4(2022)年度に基本計画を改定、それに基づき研究計画書が改定され、参加者が 18 歳に達するまで長期間継続して追跡することとなった。長期間にわたる事業であることから、社会情勢の変化や目標の達成状況等を把握し、必要に応じて改善を行うための自己点検及び評価を毎年度実施する。また、調査の進捗状況に応じて複数回の中間評価を行い、事業終了後に最終評価を行う。

評価のスケジュールについては、必要に応じて適宜検討することとするが、参加者全員が 18 歳に達する 2033 年度までの評価スケジュールは概ね以下のとおりとする。

＜エコチル調査全体の評価スケジュール＞

年度	年次評価	中間評価	主な評価内容
平成 23 (2011)	●		—
2012		●	リクルート2年目の状況を踏まえ、リクルートの終了及び初期のフォローアップに向けた評価を行う。
2013	●		—
2014		●	フォローアップ初期の状況を踏まえ、長期的なフォローアップに向けた評価を行う。
2015	●		—
2016	●		—
2017	●		—
2018		●	6歳頃までのフォローアップの状況を踏まえ、学童

年度	年次評価	中間評価	主な評価内容
			期のフォローアップに向けた評価を行う。
令和元(2019)	●		—
2020	●		—
2021	●		—
2022	●		—
2023		●	学童期のフォローアップが後半に入ることを踏まえ、フォローアップの進捗状況の評価を行う。
2024	●		—
2025	●		—
2026	●		—
2027	●		—
2028		●	前年度に全参加者が 13 歳に達したことを踏まえ、総括的な評価を行う。
2029	●		—
2030	●		—
2031	●		—
2032	●		—
2033		●	前年度に全参加者が 18 歳に達したことを踏まえ、17 歳までのフォローアップを踏まえた評価を行う。

3. 評価の視点

令和6年度年次評価においては、これまで「環境省研究開発評価指針」等を踏まえて評価の対象としていた、参加者のフォローアップ状況やデータ利用の安全性確保等とともに、引き続き、コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動を含む。）のより重点的な評価や、学術論文の発表状況を評価の対象とするなど、以下の視点で評価を行うこととする。

- フォローアップの進捗状況等※¹
- 13 歳以降の調査に向けた準備状況
- 学童期検査、詳細調査の実施状況※²
- 個人情報管理の状況
- データ利用及び成果発表のルールの遵守状況
- 研究（追加調査等）の体制及び実績（人材育成を含む）
- 調査結果に関する広報活動の状況
- 環境政策・施策への反映
- コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を含む）※³
- エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章、学術論文の発表状況※⁴
- 調査実施のための組織体制の妥当性
- その他（令和4年度年次評価書を受けての取組状況）

※¹ フォローアップの進捗状況等については、質問票回収率等の指標に基づき評価を行うとともに、PDCA の観点を踏まえ、ユニットセンターの互選により、「参加者（子どもを含む）の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」に係る取組に優れたユニットセンターを選出し、当該ユニットセンターの評価への加点要素とするものとする。

※² 学童期検査・詳細調査の実施率については、地域によって対象人数が異なること、また、新型コロナウイルスの感染状況及び調査の進捗への影響等が地域によって大きく差異があったことから総合評価の対象とはしない。

※³ 調査成果の社会還元については、PDCA の考え方に基づいた取組の中で、コミュニケ

ーション活動等を評価する。優れた取組のユニットセンターをあげることで、ユニットセンターの評価への加点要素として扱う。ただし、コミュニケーション活動等については、新型コロナウイルスの感染状況により、大きく従来の諸活動が制限され、「新しい生活様式」を踏まえたコミュニケーション活動の充実などが求められていることに留意して評価を行う。

※4 エコチル調査の研究成果や活動に対し学会等から表彰・褒章があった場合、加点要素として扱う。学術論文の発表に係る評価については、ユニットセンターの人員体制等は異なるため、各センターから発表された学術論文について、単純な論文数だけでなくその質も含めて総合的に評価し、優れたユニットセンターをあげることで、ユニットセンターの評価への加点要素として扱う。

4. 令和6年度年次評価のスケジュールと実施方法

以下の通り評価を実施する。(別紙1)

- 1) 企画評価委員会の下に評価ワーキンググループを設置する。
- 2) 環境省、コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンターそれぞれが、上記の評価視点に関連する自己点検を実施して、収集した情報を環境省に提供する。(別紙2)
- 3) コアセンターと環境省が連携して、個人情報管理の状況、データ利用及び成果発表のルール遵守状況を実地調査※1において確認する。
- 4) ユニットセンターが、各センターのPDCAサイクルにおける取組と、これまでに発表された学術論文を総合的に評価し、優れたユニットセンターを選出する。
 - ①PDCAの観点を踏まえ、「参加者(子どもを含む)の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」の取組に優れたユニットセンター
 - ②PDCAの観点を踏まえ、「成果の社会還元」の取組に優れたユニットセンター
 - ③学術論文について優れたユニットセンター
- 5) 評価ワーキンググループが、4)の各センターによる評価を踏まえて、①②③それぞれについて優れたユニットセンターを選出する。(選出する数については、評価ワーキンググループにおいて検討する。)
- 6) 2)~5)で収集した情報を踏まえて、評価ワーキンググループにおいて評価書(案)を作成する。
- 7) 企画評価委員会において、評価書(案)の審議を行い、評価書を取りまとめる。

※1 各ユニットセンターの負担や公平性に配慮する。状況に応じてWeb会議システムを用いる。

5. 結果の取扱い

評価結果は、調査計画・運営実施の改善、予算等の資源配分への反映等に活用するとともに、国民への説明責任を果たすため、これらの活用状況も含め評価結果等を公表する。

令和6年度年次評価実施スケジュール及び実施フロー

	企画評価委員会	評価ワーキンググループ(WG)	実施機関
令和6年 7月	第1回委員会の開催 ・進捗状況の報告 ・その他		エコチル調査実施機関の 実地調査の実施 (年に一度実施) ・各ユニットセンターにおいて実施の 時期において不公平とならないよう に、個人情報の管理状況等通年にお いて評価可能であるもの、実地調査 が必要であるものを中心に実施。
8月			
9月			
10月			
11月			
12月		評価WGの開催 ・評価書(案)の作成 ・翌年度の評価方法(案)の検討	
令和6年 1月			
2月	第2回委員会の開催 ・評価書(案)の審議 ・評価書の策定 ・翌年度以降の評価方法、分析計画の検討		
3月			改善策の検討及び実施

令和6年度年次評価の自己点検において収集すべき情報

1 環境省

1	実施体制	実施体制	
		環境省が設置する委員会	
2	予算	予算状況	
3	企画評価	企画評価委員会における審議	
		エコチル調査実施機関の評価	
4	国際協力	国際協力に関する取組	国際協力活動
5	広報活動	認知度向上のための取組 (13 歳以降の調査に向けた準備も含む)	アウトリーチ活動の状況(「新しい生活様式」を踏まえたコミュニケーション活動の工夫など)
			広報戦略指針及び今後の方針の策定状況
			ホームページを通じた情報発信の取組状況
			広報活動の効果測定と評価状況
		エコチル調査の成果の社会への還元のための取組	調査結果のプレスリリース実施のための体制整備状況
			効果的なリスクコミュニケーション、科学コミュニケーションに向けた取組(対話)
			アウトリーチ活動の状況※ ¹ (効果検証等のため、参加人数や参加者へのアンケート・ヒアリング状況等を含む。)
6	倫理的事項	倫理審査・報告の状況	
7	環境政策・施策への反映	環境政策・施策への反映状況	
8	特記事項	(例) ・新型コロナウイルス感染拡大防止の取組による運営全般に係る影響等(体制、調査を中断した期間、調査できなかった予定人数等)、今後の予定 ・災害等の被災状況とその影響等	

※1 エコチル調査の成果の社会への還元のための取組であるコミュニケーション活動の中には、認知度向上のための取組としての広報の側面もあるが、効果検証等のため、単純な広報活動(一方向性のチラシの配布等)とは別に、イベントへの参加人数(対象はエコチル調査の参加者に限らず一般の方も含み、双方向性にコミュニケーション活動を行ったものの把握に努める。)、イベント参加者へのアンケート・ヒアリングの実施やその結果を踏まえた対応状況等の情報収集を行う(以下、各実施機関同じ)。

2 コアセンター

1	実施体制	コアセンターの組織図	職種、専門分野等（エコチル雇用、雇用形態、（常勤/非常勤）、勤務時間数、エコチル調査における役割及び具体的業務内容）
		コアセンター主催会議	委員名簿（座長には印）
		スタッフ研修	コアセンター内、ユニットセンターへの研修の状況
		予算執行	予算の効率的執行に向けた取組状況
2	全体調査及びフォローアップ	参加者数及び質問票回収状況	現参加者数と質問票回収率の推移とその原因分析状況
		フォローアップ率向上、維持のための取組状況	長期的なフォローアップに対する検討事項 ユニットセンターに対するアドバイス内容
		質問票調査	調査の進捗状況と今後の準備状況
			結果返却状況
		学童期検査の実施	12歳時検査の実施体制・実施状況※
		参加者への情報発信	参加者への情報発信状況
			エコチル調査に対する子どもの理解促進への取組
		生体試料回収状況	試料の種類、数
3	詳細調査及びフォローアップ	環境測定、医学的検査等	実施状況と今後の準備状況
			結果返却状況
		生体試料回収状況	試料の種類、数
4	13歳以降の調査	調査内容の検討	参加者が18歳に達するまでの調査内容（Web 質問票等）の検討状況
		再同意取得	再同意取得に向けた取組、同意取得状況
		調査の準備	実施体制の検討、参加者ポータルサイトの準備状況、その他
5	研究	コアセンターにおける研究体制	責任者、統計解析責任者、従事者、研究体制図
		データ入力精度管理	データ入力精度を向上させるための具体的な取組状況
		論文執筆状況	研究者へのデータ配布状況
			論文の質担保のための取組状況、手続きの効率化
			論文発表状況 論文発表の予定含む）
		エコチル調査の成果の社会への還元のための取組	データ利用及び成果発表ルールの整備状況
			調査結果のプレスリリース実施のための体制整備状況
			効果的なリスクコミュニケーション実施のための体制整備状況
			アウトリーチ活動の状況（各ユニットセンター等のアウトリーチ活動のサポート活動や、サポート以外でコアセンターが主として行ったアウトリーチ活動における、参加人数や参加者へのアンケート・ヒアリング状況等の結果、成果の社会還元の状況（活用事例等）を含む。）

			集計データの公開状況、公開予定
			コアセンターの研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章
			データ共有に向けた準備状況
		人材育成実績等	研究者の育成、ポスドク、講師・ファシリテーター 大学院生等の育成（人数、学位論文）
6	化学分析	進捗状況と今後の準備	データ固定の現状と今後の予定
			分析方法の開発等進捗状況
7	国際連携	国際連携に関する取組 （学術的な取組）	諸外国等との連携
			国際学会等への専門家派遣状況
			小児環境保健分野の研究者育成のための取組状況
8	個人情報管理	個人情報管理の運用状況	コアセンターの運用状況
			ユニットセンター等の監理状況
			個人情報管理ルールの再点検等の状況
9	情報セキュリティ	情報セキュリティの運用状況	コアセンターの運用状況
			ユニットセンター等の監理状況
			情報セキュリティの再点検等の状況
10	特記事項	（例） ・新型コロナウイルス感染拡大防止の取組による運営全般に係る影響と対応等（体制、調査を中断した期間、調査できなかった予定人数等）、今後の予定 ・災害等の被災状況とその影響と対応等	

※学童期検査、詳細調査は、地域によって調査対象人数が異なること、また、新型コロナウイルスによる影響も地域によって異なるため、総合評価の対象としない。

3 メディカルサポートセンター

1	実施体制	メディカルサポートセンターの組織図	職種、専門分野等（エコチル雇用、雇用形態、（常勤/非常勤）、勤務時間数、エコチル調査における役割及び具体的業務内容）
		メディカルサポートセンター主催会議	委員名簿（座長には印）及び検討等の進捗状況
		スタッフ研修	メディカルサポートセンター内研修の状況
			ユニットセンターへの研修の状況
		予算執行	予算の効率的執行に向けた取組
2	全体調査及びフォローアップ	質問票調査	質問票作成の進捗状況と今後の準備状況
		学童期検査の実施	12歳時検査の実施・準備状況（検査項目、検査手法の確立、標準化等の検討）
		遺伝子解析	今後の遺伝子解析の検討状況
			遺伝子解析の実施状況
3	詳細調査及びフォローアップ	医学的検査等	今後の検討状況（検査項目、検査手法の確立、標準化等の検討）
		結果返却対応	ユニットセンターからの問い合わせ対応体制等
4	13歳以降の調査	調査内容の検討	Web 質問票の検討状況
			13歳以降の検査の検討状況
5	研究	メディカルサポートセンターの研究体制	分野別（責任者、統計解析責任者、従事者、研究体制図）
		成果の社会への還元の取組状況	成果発表ルールの周知方法、発表体制等
			成果発表の状況
			リスクコミュニケーションに係る取組状況
			アウトリーチ活動の状況（各ユニットセンター等のアウトリーチ活動のサポート活動や、サポート以外でメディカルサポートセンターが主として行ったアウトリーチ活動における、参加人数や参加者へのアンケート・ヒアリング状況等の結果、成果の社会還元の状況（活用事例等）を含む。）
			エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章
			研究者の育成、ポスドク、講師・ファシリテーター 大学院生等の育成（人数、学位論文）
6	データマネジメント	入力データの精度管理を向上させるための取組	
7	個人情報管理	運用状況、個人情報管理に関する基本ルールの遵守状況	
8	情報セキュリティ	メディカルサポートセンターのシステム	
		パソコンのウイルス対策	
		運用状況	
9	特記事項	（例） ・新型コロナウイルス感染拡大防止の取組による運営全般に係る影響等（体制、調査を中断した期間、調査できなかった予定人数等）、今後の予定 ・災害等の被災状況とその影響等	

4 ユニットセンター

1	実施体制	ユニットセンターの組織図	職種、専門分野、エコチル調査における役割
		ユニットセンター構成員（教員、事務職員、リサーチコーディネーター等）	職種、人数、業務内容、週平均の業務時間数等
		研究体制	
		地域運営協議会	地域運営協議会開催状況
		関係機関との協力体制	関係機関との連携内容
		研修	スタッフ等の研修状況
2	全体調査及びフォローアップ	参加者ステイタスの状況	現参加者数維持のための取組状況、エコチル調査に対する子どもの理解促進への取組
			適切な登録、追跡の実施の有無等
		質問票回収状況	質問票回収率
			質問票回収率維持のための取組状況
			質問票のデータ登録状況
		学童期検査の実施状況	8歳時検査実施状況※
			12歳時検査実施・準備状況
3	詳細調査及びフォローアップ	医学的検査等	調査の実施状況と12歳時検査の準備状況※
		結果返却対応	実施状況
			参加者からの問い合わせ状況
4	13歳以降の調査	調査の準備	実施体制の検討、調査の準備状況
		再同意取得・参加者維持	再同意取得に向けた取組、同意取得状況
			子どものモチベーション維持に関する取組
5	エコチル調査の成果の社会への還元	成果の社会への還元の取組状況	成果発表ルールの周知方法、発表体制等
			成果に係る情報発信状況
			アウトリーチ活動の状況（「新しい生活様式」を踏まえたコミュニケーション活動の工夫、効果検証等のため参加人数や参加者へのアンケート・ヒアリング状況等の結果、成果の社会還元の状況（活用事例等）を含む。）
			リスクコミュニケーション、科学コミュニケーションに係る取組状況（教育関係機関・環境部局等との連携への取組み等）
			研究者の育成、ポスドク、講師・ファシリテーター、大学院生等の育成（人数、学位論文）
			エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章
6	個人情報管理	運用状況、個人情報管理に関する基本ルールの遵守状況	
7	情報セキュリティ	各ユニットセンターのシステム	
		パソコンのウイルス対策	
		運用状況	
8	年次評価を受けての取組状況	第四次中間評価を受けての取組状況	
9	特記事項	（例） ・新型コロナウイルス感染拡大防止の取組による運営全般に係る影響、対応等（体制、調査を中断した期間、調査できなかった予定人数、工夫等）、今後の予定 ・災害等の被災状況とその影響、対応等	

※学童期検査、詳細調査の実施率については、地域によって対象人数が異なること、また、新型コロナウイルスの状況が地域によって大きく差異があることから、総合評価の対象とはしない。

実地調査チェックリスト

(1) 実地調査においては、個人情報管理の状況、データ利用及び成果発表のルール遵守状況として(2)の項目を確認する。

(2) 確認項目

- ☐ 個人情報に関する基本ルールをもとに、機密度ランクに応じた安全管理手続を定めているか。
- ☐ すべての電子化されたデータや文書、記録媒体の所在が特定され、一覧表等に機密度ランクが明示されているか。
- ☐ 電子化されたデータ等の機密度ランクを明示した管理簿が作成されており、利用記録が更新されているか。
- ☐ 電子化されたデータや文書、記録媒体の利用状況について定期的に把握され、その記録があるか。
- ☐ 情報を電子媒体（ハードディスク、パソコン、USB 等）に保存する（一時的な保存を含む）場合の、外部流出を最小限とするための措置が講じられ、文書に定められているか。
- ☐ 個人情報管理に関する自己点検リストを作成し、定期的に活用しているか。
- ☐ 個人情報に関する基本ルールの周知や研修がされているか。
- ☐ パソコンにおけるウイルス対策を行っているか。
- ☐ 個人情報に関する基本ルールにおける指摘事例の有無
- ☐ データの利用及び成果発表に関する基本ルールを周知させるための取組を行っているか。
- ☐ 論文執筆や成果発表の進捗や申請手続きを管理する担当者を置いているか。
- ☐ 固定データは外部流出・紛失がないよう、安全に配布・管理されているか。
- ☐ 成果発表ルール及び論文執筆時の手続き（追加調査含む）における指摘事例の有無

令和6(2024)年度 ユニットセンターの評価視点について

令和6(2024)年度年次評価				(参考) 第四次中間評価 (2023年度実施)
総合評価指標		評価	備考	
フォー ロー ア ッ プ 状 況	現参加率	各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する(評価は行わない)。	第四次中間評価に同じ。	各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する(評価は行わない)。
	質問票回収状況	年齢別質問票・学年別質問票の回収率が■%(UC平均)以上を◎とする。	6ヶ月～12歳、小1～小6までの合計の質問票回収率の平均を計算して指標を設定する。	質問票の回収率(6ヶ月～11歳、小1～小5)が81.3%(UC平均)以上を◎とする。
		また、令和5年度及び令和6年度に継続して回収率が全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上の場合は◎とする。	第四次中間評価に同じ。 ※継続して回収率を維持しているUCへの加点要素。	また、令和4年度及び令和5年度に継続して回収率が全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上の場合は◎とする。
	質問票回収率の維持状況	差異が■ポイント(UC平均)未満を◎とする。	6ヶ月回収率と小6回収率の差より指標を設定する。	6ヶ月回収率と小5回収率の差異が20.0ポイント(UC平均)未満を◎とする。
	質問票回収率の直近の改善状況	傾きの差異がプラス(前年度より改善)の場合を◎とする。	令和6年度の質問票回収率(6ヶ月～小6)の一次直線の傾きを、令和5年度の質問票回収率(6ヶ月～小5)と比較。	令和5年度の質問票回収率(6ヶ月～小5)の一次直線の傾きを、令和4年度の質問票回収率(6ヶ月～小4)と比較。傾きの差異がプラス(前年度より改善)の場合を◎とする。
業 務 コ チ 般 の 調 査 組 に 係 る	参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	PDCAの観点を踏まえ、特に優れた「参加者の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」の取組を行っている場合を◎とする。 ※●以上のUCから互選があったUCに評価点を加点する(評価WGで検討)。	第四次中間評価に同じ。	・「参加者(子どもを含む)の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」 ・成果の社会還元 の2つの観点から評価し、それぞれ加点要素とする。
	成果の社会還元の取組	PDCAの観点を踏まえ、特に優れた成果の社会還元の取組(*)を行っている場合を◎とする。 * 成果の社会還元の取組 1) コミュニケーション活動(単純な広報活動とは別に、イベントへの参加人数、イベント参加者へのアンケート・ヒアリング結果やその対応状況等を総合的に評価) 2) アウトリーチ活動、その他 ※●以上のUCから互選があったUCに評価点を加点する(評価WGで検討)。		

令和6（2024）年度年次評価				（参考）第四次中間評価（2023年度実施）
総合評価指標		評価	備考	
エコチル調査成果	エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章	エコチル調査の研究成果や活動に対し学会等から表彰・褒章があった場合を◎とする。	第四次中間評価に同じ。	年次評価においてユニットセンターが提出する自己点検シートから把握。 ※教職員や学生を対象として大学が行う学内表彰は除く。
	学術論文等の発表	特に優れた学術論文や成果発表があった場合を◎とする。 ※●以上のUCから互選があったUCに評価点を加点する（評価WGで検討）。	第四次中間評価に同じ。	
エコチル調査ルールの遵守及び管理状況	個人情報の管理状況	ルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価においてS・A評価の対象としない。また、2回以上（年度をまたぐ場合を含む）同じ内容でルール違反を発生させた場合は総合評価をCとする。	第四次中間評価に同じ。	ルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価においてS・A評価の対象としない。また、2回以上（年度をまたぐ場合を含む）同じ内容でルール違反を発生させた場合は総合評価をCとする。
	成果発表ルールの遵守状況	上記に準ずる。 ただし、総合評価における減点の対象は、論文成果の事前審査や届出など、環境省やコアセンターへの手続きを一度も行わずに成果発表を行った場合など、エコチル調査の成果を発表する上で重大な問題となることが想定される場合を対象とする。	第四次中間評価に同じ。	
総合評価の考え方		S：◎が5個以上あり、 且つ、フォローアップ状況の◎が4個 A：◎が3個以上ある（学術論文発表等を除く） B：◎が1個又は2個ある（学術論文発表等を除く） C：◎がない又は2回以上（年度をまたぐ場合も含む） 同じルール違反がある ※ 但し、ルール違反等があった場合は◎が3個以上の場合でもB以下となる	第四次中間評価に同じ。	S：◎が5個以上あり、 且つ、フォローアップ状況の◎が4個 A：◎が3個以上ある（学術論文発表等を除く） B：◎が1個又は2個ある（学術論文発表等を除く） C：◎がない又は2回以上（年度をまたぐ場合も含む） 同じルール違反がある ※ 但し、ルール違反等があった場合は◎が3個以上の場合でもB以下となる